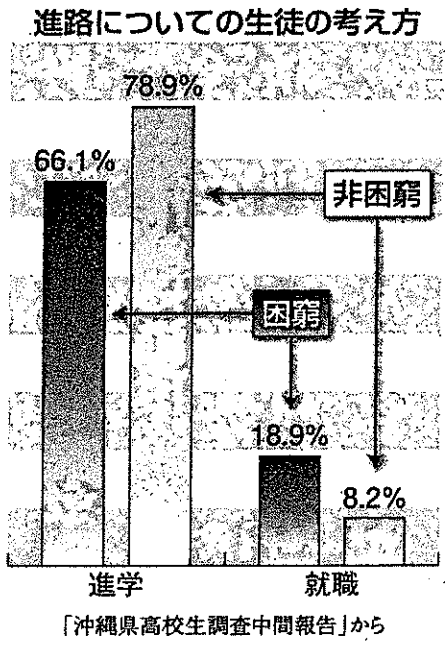


沖繩 困窮世帯の高校生 週5日バイト27%

困窮世帯の高校生の約4人に1人が週5日以上アルバイト。沖繩県の高校生の厳しい実態が県の高校生調査から浮かび上がりました。

沖繩県は、県内の高校生を取り巻く社会や経済状況が進路や将来の希望、日常生活などどう影響しているかを調べ、今後の進路支援や子育て環境への対策を検討することを目的に調査を実施。6日、中間報告を発表しました。

県調査 進学希望にも格差



困窮世帯の高校生の32%がアルバイトをしており、週5日以上は27%に上ります。「昼食代」(34・8%)、「家計の足し」(33・7%)、「通学のため」お金をためよ

生徒の自由記述では、「アルバイトをして(進学のため)お金をためよ

学のための交通費」(24・1%)に充てています。大学や専門学校への進学を希望する生徒は、非困窮世帯では78・9%でしたが、困窮世帯では66

・1%にとどまりました。

うと思っても、バイトしている分、塾に行く時間も限られる」「進学に対して経済的な面でとても不安があり、奨学金を借りても返せるか、とても不安」などの悩みがつけられています。

2016年11月から12月にかけて、県内の公立高校全60校の2年生と保護者を対象にアンケート調査を行いました。生徒・保護者がそろって回答した4311件(有効回答率59・1%)を、127万円未満の困窮世帯と、127万円以上の非困窮世帯に分けて分析しています。困窮世帯は全体の29・3%。